



明治初期に祖父江町の素封家渡辺家邸内に表千家家元碌々（ろくろく）斎の好みにより建築され、昭和32年に移築された茶室。国の登録有形文化財。木造平屋建・切妻造桧瓦葺、銅板葺の庇を深く張り出す。本席の四畳半台目を中心に、西側に水屋、北側に玄関、北東に二畳台目の寄付を配す。毎月18日（7、8月を除く）、豊頌軒と桐蔭茶席で豊国神社献茶会が開かれている。

平成元年に建築された和室2室（六畳・八畳）、立礼席が設けられる土間（八畳）が接続した茶席。「桐」は豊臣家の紋章を、「蔭」は秀吉をしのぶ気持ちが込められている。木造平屋建て、瓦及び銅板葺き。



如藤清正公没後300年を記念して明治43年に建築された、木造瓦葺の書院。同年に皇太子（後の大正天皇）が迎賓館として使用された。書院風の車寄せが特徴的であり、西側は和室三室を並べ、吟味された良材を用い、座敷飾りを備え、天井高の高い空間。明治期の公共木造建築物として稀少性が高い。昭和29年～42年まで、英公園（徳川園）に次ぐ市営の結婚式場として利用されていた。国の登録有形文化財。



中村公園 庭園平面図 ～記念館・豊頌軒・桐蔭茶席～

（2020年9月1日発行）